

当院における アンチエイジング療法

土佐愛美

ドウケア歯科
矯正歯科クリニック

従来の診療と、新しい診療

「アンチエイジング・抗加齢療法」を中心に紹介

①血液データから読み取る必要栄養素の説明、サプリメントの提案、②毛髪検査・遅延型アレルギー検査、③食事指導、④プラセンタ療法、⑤ヒアルロン酸、⑥Dz.コスメの提案、⑦訪問診療、⑧パーフェクトペリオ（歯肉のアンチエイジング）



■デンタルプラセンタ注射

歯周病や歯肉炎の治療を目的として行っている。患者さんの感想として、◎歯の動揺が治まった（40代女性）・疲れにくくなった（30、40、50代男性・女性）◎生理が楽になった（30、40代女性）◎肌荒れが一気に良くなった（30代男性・女性）◎視野が明るくなる（30代女性）◎その日は熟睡する（介護している男性・女性）◎肩が上がりやすくなる（60代女性）◎二日酔いになりにくい（20、30代女性）

■プラセンタサプリメント服用

プラセンタは良質な不純物が入っていないもので濃度が濃いものを選択する。

◎妊娠線が薄くなった（30代女性）◎服用3日目で足が熱い、冷え性だったのに止めたらまた足が冷たくなった（50代女性）◎なんだか解からないけど調子が良い（60代女性）◎地獄の合宿もこれがあると乗り切れる（居合の師範代・60代女性）◎髪の毛が生えてきた（90代女性）◎何年も悩んでいた肌荒れが良くなった（皮膚科に通院していた看護師・30代）

■プラセンタの留意点

注射には同意書（献血ができない）が必要。筋注の場合同じ部位に注射を繰り返すとしこり状に硬くなる。歯肉に注射するときは、その部分の顔が腫れるので注意が必要。独特の匂いがある。

①献血はできないが臓器移植のドナーにはなることができる。②部位を変えればOK。③特に女性には説明し、両側に打つ等している。顔が腫れるのを嫌がる方は腕に打ったりするが、その後歯肉に戻ることが多い。④元々胎盤なので注射もサプリメントも、コスメも独特の生臭さを感じることが多い。コスメは大幅改善されてきている。⑤プラセンタを中止すると、体力が元に落ちていくのを感じる。また、治まった歯牙の動揺が再発したこともある。その患者様は中止して3か月ほど。

プラセンタの副作用として、大きな副作用は見つかっていないが同意書には、注射部位の疼痛、発赤、悪寒、発熱、発疹などが記入されている。私が経験したものは「注射部位の疼痛、発赤、腫脹」程度である。

理想はバランスの取れた食事と適度な運動、睡眠をとること

■ プラセンタと不足栄養分の補充

理想はバランスの取れた食事と適度な運動、睡眠をとること。しかし、なかなかできない。まずは第一歩としてプラセンタを使用することで基礎体力をアップさせることが有意義であるといえる。血液検査にて分かる不足栄養分を補いつつプラセンタを使用すると効果抜群。私は2年間、プラセンタの摂取をしている。最初の一年は他のサプリメントを使用せずプラセンタのみで行なった。肌が良くなり、体力もついたが、肝機能が落ちたままでした。血液検査でV・B不足が認められたので、次の一年はプラセンタとソデッシュ、V・Bの摂取を継続したところ、肝機能が大幅にアップした。

院内のディスプレイも工夫

院内にはスタッフ手作りのディスプレイもしてある。



上段の2つは当院の衛生士が作製したものです。やはり患者さんの目を引くようです。



当院で患者さんや自分の家族に勧める製品のラインナップです。

歯科から提案する抗糖化

プラセンタで免疫アップするのと同時に、食べ物による身体のさび・酸化と糖化を抑制するのに「SODSH」をお勧めしている。抗炎症効果もあるので怪我をしたときの治癒促進の効果に期待できる。アトピーで悩む友人も使用している。糖尿病の方が血液データが良くなったとの感想もある。

何よりカリエスが糖分の過剰摂取を示している。ブラッシングは勿論、食事も大切である。虫歯が多い子どもは、集中力が無いといわれている。「子どもが欲しがるといふ親の多くは親自身が糖分の依存症になっていることが多く、カリエスが大人はゆくゆくは糖尿病、アルツハイマー型認知症の可能性が大きい。

自分の家族に勧められるものや家族が取り入れやすいものとして、「SODSH」が抵抗感なく取り入れられた。大豆製品であること、味が良い、銀杏葉エキスで認知症予防、血糖値の上昇をゆるやかにするなど「ビタミン剤」、「プラセンタ(胎盤)」に感じる抵抗感が少ない点が上げられる。

口腔内から、全身疾患の予防

カリエスやペリオが全身疾患に関連しているのはご承知の通りである。まずは食生活の見直しが大切である。身体に不要なものは極力取り入れないこと。不要な不良糖分が日本で濫用されていることから目をそむけないことも、子どもたちの将来を守ることになる。

各先生の臨床症例など詳しくは、日本臨床アンチエイジング研究会の会員専用HPでご覧になれます。